

小 1 年

ながはま	か
ねん	み
やじま	な
この	り

滋賀県書道協会賞

矢島心暖

かるいタッチで大きくのびやかにどうとうかけました。なまえまででいねいにかけてうつくしいです。

小 1 年

まみなみ	く
ねん	だ
みなくち	も
なみ	の

滋賀県書道教育研究会賞

水口菜珠

しっかりとしまっすくなせんで、もじのかたちをていねいにととのえてかけました。

小 1 年

まいばら	か
ねん	き
みわあかり	か
	た

京都新聞賞

三輪紅璃

右上がりのせんをきれいにととのえていてすっきりとしたうつくしいさくひんです。

幼稚園

ひなた	し
やま	い
こぼい	た
おり	け

京都新聞賞

小久保伊織

もじのまんなかをとおして、のびのびしたせんで、なまえまできちんとかけました。

小 2 年

今東	雨	
二年	とあ	
おちあ	かじ	
いはる	たさ	
	つい	
	むの	
	り花	

滋賀県書道教育研究会賞

落合美春

やさしいちょうしで見ていると心がなごむ作ひんです。えんびつのかさがうつくしく作ひんのふんいきにぴったりです。

小 2 年

せ田東	小	
小	犬	花
二年	と	を
た	さ	つ
か	ん	み
は	ほ	な
した	す	が
たく	る	ら
み		

京都新聞賞

高橋拓己

ひらがなの字けいがしっかり自分のものになり、じしんをもってなまえまでかけているすばらしい作ひんです。

小 2 年

あさひ	れ	
南	し	小
二年	そ	人
中	う	た
村	で	ち
ほ	し	は
のか	た	
	。	う

草津市教育委員会教育賞

中村穂香

たくさんの字をおなじょうして—かくずつていねいにかきあげました。なまえまでしっかりかけています。

小 1 年

ギ	あ
おう	ま
ねん	ま
ふ	か
く	が
た	バ
にかける	。

滋賀県書道協会賞

福谷天翔

もじのちゅうしんがきちんとおってすばらしいです。かたちもていねいにととのえられました。

小 3 年

の北	の	
三年	よ	午
木下こうや	う	前
	い	中
	を	
	す	音
	る	楽
		会

滋賀県知事賞

木下 昊哉

すっきりとした直線がのびのびと引かれ、漢字とひらがながとてもよく調和しています。

小 2 年

の東	は	
二年	く	天
ほり川りな	ち	の
	よ	川
	う	を
	ぎ	わ
		た
		る

滋賀県書道協会賞

堀川 莉奈

すっきりとしたのびやかなせんで書けています。形もとののっていいこと。

小 2 年

とさこわ	も	
二年	じ	し
ハ木ひな	を	せ
	か	い
	こ	を
	う	正
		し
		て

滋賀県書道協会賞

八木 陽菜

一かかずつていねいにしゅう申してさいごまで書くことができました。

小 2 年

しんあきむ	れ	
二年	し	小
木村さい	そ	人
	う	た
	で	ち
	し	は
	た	
		う

滋賀県書道協会賞

木村 早佑

力を入れすぎず、すっきりとしたせんで、ていねいに書くことができました。

小 3 年

あど		
三年	春	す
八代さき	の	き
	花	と
	を	お
	つ	る
	む	空

滋賀県書道協会賞

八代 彩希

きびきびとした直線とあざやかなはらいがこの作品のみりよくです。とても美しい線です。

小 3 年

青やぎ	気	
三年	も	さ
志村ひな子	ち	わ
	よ	や
	い	か
	風	な
		朝
		に

滋賀県書道協会賞

志村 日向子

すっきりとした美しい線で書かれ、ことばどおりさわやかな気持ちになる作品です。

小 3 年

志津小	花	
三年	火	湖
久保架瑠	が	上
	広	に
	が	は
	つ	大
	た	き
		な

京都新聞賞

久保 架瑠

止めるところ、はらうところ、はねるところをしっかりと考えて書けました。

小 3 年

高月三年	れ	
あつじとも花	い	大
	に	き
	さ	な
	い	花
	た	が
	よ	
		き

滋賀県教育委員会教育長賞

阿閉 朋花

ひらがなの形のポイントをしっかりとおさえ、ていねいに書けています。

小 4 年

安曇	生	
四年	活	地
青木	を	球
陽真	心	に
	が	や
	け	さ
	る	し
		い

滋賀県教育委員会教育長賞

青木陽真

一本一本の線が安定して書けています。字形も整っていて名前まで美しい。

小 3 年

馬淵	ら	
三年	き	ト
大ほり	た	マ
あいら	野	ト
	さ	は
	い	西
	だ	洋
		か

滋賀県書道協会賞

大堀藍楽

力むことなくスッと引いた線がとても美しいです。また字形のバランスもよく整っています。

小 3 年

柏木	雨	
三年	と	あ
つじりの	か	じ
	た	さ
	つ	い
	む	の
	り	花

滋賀県書道協会賞

辻 莉乃

ひらがなの形がともしっかりしていて美しいです。名前まで同じ調子で集中して書けています。

小 3 年

新野	と	
三年	北	白
清水	国	鳥
さゆ	に	は
	帰	春
	る	に
		な
		る

滋賀県書道協会賞

清水咲結

めずらしい横書きの作品です。字形の特ちょうや大きさを考えながら全体をうまくまとめています。

小 4 年

貴生川	く	
四年	に	友
鬼	行	だ
丸	き	ち
瑞	ま	と
希	し	海
	た	水
		よ

滋賀県書道協会賞

鬼丸瑞希

すっきりとすがすがしい線で書いています。文字の中心がよく通り、せすじがピンとのびる思いがします。

小 4 年

桐原	の	
四年	海	き
橋本	で	れ
ひなた	見	い
	つ	な
	け	魚
	た	を
		南

滋賀県書道研究会賞

橋本ひなた

一点一画をおろそかにせず、全体の調和がとれた作品となりました。

小 4 年

草津	白	
四年	い	大
本	ひ	空
永	こ	の
航	う	か
大	き	な
朗	雲	た
		に

滋賀県書道研究会賞

本永航大朗

一字一字の文字の組み立てがしっかり出ています。中心が通り、すっきりした作品になりました。

小 4 年

守山	く	
四年	ら	し
道	を	高
木	大	め
な	切	る
み	に	心
	す	と
	る	美
	心	し
	と	は

京都新聞賞

道木成美

一字一字でいねいに運筆し、調子がかえず書ききりました。ひらがな漢字のバランスも良いです。

小 5 年

城南 五年 大森 結芽	き	
	な	ま
	植	い
	物	た
	が	種
	育	か
	つ	ら
		大

滋賀県教育委員会教育長賞

大森 結芽

軽やかな筆圧ののびやかな線で書けています。字形も美しく、ひらがなと漢字のバランスも良くすばらしいです。

小 4 年

長はま南 翠 中島 ゆう大		
	銀	水
	色	平
	に	線
	光	の
	る	か
	波	な
		た

滋賀県書道協会賞

中島 優大

ふくざつな漢字のまざる題材を横画の角度、点画の向きに注意しながらていねいに書けています。

小 4 年

城南 四年 中島 るな	ホ	
	ト	時
	ト	鳥
	ギ	と
	ス	書
	と	い
	読	て
	む	

滋賀県書道協会賞

中島 瑠菜

横画の間かくをみごとに等しくそろえています。漢字・かな・カタカナの大きさのバランスもよく考えて書けています。

小 4 年

馬淵 四年 岡村 ゆい	を	
	か	電
	く	話
	に	て
	ん	宿
	す	の
	る	空
		室

滋賀県書道協会賞

岡村 結衣

かんむりのある漢字やへんの形など整え方のコツを理かいて最後までていねいに書けています。

小 5 年

桐原 五年 中川 暖	に	地	赤
	は	球	い
	ク	の	色
	レ	半	を
	イ	分	した
	タ	ほ	た
	ー	ど	火
	が	で	星
あ	そ	の	
り	の	直	
ま	表	径	
す	面	は	

滋賀県書道協会賞

中川 暖

一字一字を着実に書きすすめて、りっぱに多字数作品を仕上げています。カタカナも上手に入りました。

小 5 年

新南 五年 青木 莉の	ス	ポ	ー	ツ	に	し	ろ	音	楽	に	し
	る	上	手	に	な	る	ま	で	に	は	何
	度	も	か	べ	に	つ	き	当	た	る	だ
	ら	う									

滋賀県書道協会賞

青木 梨乃

多字数をのびやかな線で、かつ統一感を持って書けています。楽しい書きぶりが作品にあふれています。

小 5 年

北野 五年 植田 莉子	き	
	な	ま
	植	い
	物	た
	が	種
	育	か
	つ	ら
		大

滋賀県書道研究会賞

植田 莉子

注意深くていねいに書きあげています。ひらがなの字形がとても美しいです。

小 5 年

安土 五年 織田 愛花	ス	ポ	ー	ツ	に	し	ろ	音	楽	に	し
	る	上	手	に	な	る	ま	で	に	は	何
	度	も	か	べ	に	つ	き	当	た	る	だ
	ら	う									

京 都 新 聞 賞

織田 愛花

書き出しから名前まで一貫した軽い筆圧で、すっきりと書き上げています。落ちついた美しい作品です。

小 6 年

美	と	太
し	、	陽
い	ガ	の
に	ス	光
じ	の	を
色	光	プ
の	が	リ
帯	分	ズ
に	か	ム
な	か	に
る	れ	あ
。	て	て

附属 六年 田中志武

滋賀県教育委員会教育長賞

田中志武

自然体で構え、やわらかな運筆ができています。すっきりとした線で統一感のある作品になりました。

小 6 年

光	り	静	マ
の	、	か	東
あ	縮	に	六
み	ん	砂	年
は	だ	を	高
ゆ	り	す	木
ら	。花	べ	ほ
り	び	り	の
、	ら	ま	み
伸	の	し	
び	影	た	
た	は	。	

滋賀県知事賞 高木暖心

滋賀県知事賞

高木暖心

ゆったりと、それでいてすっきりとした線で名前の最後まで書き切りました。字形も美しく整っており見事です。

小 5 年

フ	の	五	瀬
ロ	び	年	田
ー	わ	生	東
テ	湖	の	小
イ	学	大	五
ン	習	き	年
グ	、	な	高
ス	船	思	橋
ク	上	い	由
ア	の	出	伊
ール	一	た	
ル	ぱ	。	
で	く		

滋賀県書道協会賞 高橋由伊

滋賀県書道協会賞

高橋由伊

軽いタッチの美しい線で書いています。カタカナ、ひらがな、漢字のバランスも良くとても上手にまどめています。

小 5 年

新	面	高
発	白	宮
見	い	五
を	切	年
よ	り	平
ん	口	田
だ	が	唯
。		月

滋賀県書道協会賞 平田唯月

滋賀県書道協会賞

平田唯月

のびやかな美しい線で、すっきりと書いています。字形も整っており堂々とした作品になりました。

小 6 年

あ	い	米
る	っ	原
晴	ば	六
れ	い	年
た	に	近
春	開	藤
の	け	萌
朝	て	々
だ	や	菜
っ	っ	
た	た	
。	。	

滋賀県書道協会賞 近藤萌々菜

滋賀県書道協会賞

近藤萌々菜

最初から最後まで、一貫した軽い筆圧ですっきりと書き上げました。落ち着いた、おだやかな作品です。

小 6 年

動	住	島
物	ん	小
の	で	六
体	い	年
は	る	茶
、	場	谷
そ	所	里
れ	の	菜
に	気	
、	候	
	や	
	風	
	土	
	。	

滋賀県書道研究会長賞 茶谷里菜

滋賀県書道研究会長賞

茶谷里菜

右上がりやを少しおさえ直線的に書いており、簡潔で見やすい作品になりました。

小 6 年

大	桐	産	大
輪	原	と	輪
で	六	ち	で
深	年	が	深
い	大	い	い
色	黒	、	色
が	花	和	が
中		風	中
心		バ	心
の		ラ	の
海		は	海
外		小	外
		ふ	
		り	
		で	
		色	
		は	
		あ	
		わ	
		く	
		か	
		お	
		り	
		高	
		い	

滋賀県書道研究会長賞 大黒花

滋賀県書道研究会長賞

大黒花

行の中心をよくとらえ全体のバランスも考えて見事に美しく仕上げました。

小 6 年

新	安	印
し	土	象
い	六	的
作	年	な
品	西	画
集	川	家
	心	
	菜	

京都新聞賞 西川心菜

京都新聞賞

西川心菜

のびやかな線で美しく仕上げています。一画一画に気持ちが入り、堂々とした書きぶりです。

中 1 年

花火大会 駅で待つ人
 浴衣の帯 美しい夜景

松原 一年 西岡 柚 菜

京都新聞賞

西岡 柚 菜

黒いペンで書かれていると、キリッとした美しさが引き立ち、青いペンのやわらかさは別の魅力があります。

中 1 年

川の流れ 静かな高原
 夕焼け空 遠い海鳴り

南中 一年 田中 結歩

草津市教育委員会教育長賞

田中 結歩

スッキリとした、美しく無駄のない字形と線の引き方で、集中力の高さが際立った作品です。

小 6 年

夜空を見上げると、またたき
 く星の間を、白い雲がまるで
 川のように流れて行った。

新旭南 六年 吉里 樹 飛

滋賀県書道協会賞

吉里 樹 飛

筆先をおさえた統一感のある線で最後まで書き切りました。さわやかな作品です。

小 6 年

「森の人」を意味するオラ
 ンウータンは、東南アジアの
 熱帯林のみで生息しています。

玉川 六年 増山 夏 帆

滋賀県書道協会賞

増山 夏 帆

一画一画に気持ちを集中し、ていねいに的確な線がひけました。統一感のある作品です。

中 2 年

新生 太陽 朝夕 自然
 初志 画集 独立 信頼

青山 二年 木原 葉 乃

滋賀県書道協会賞

木原 葉 乃

行書の特徴を生かし、一貫した書きぶりで最後まで堂々と調子良く書き上がった作品となりました。

中 2 年

二〇一七年は、2016年、カンボジア大学で数学を学んでいる時、ベトナムの流行を経験する。大学は閉鎖され彼は故郷カンボジアの田舎に退避するしかなかった。そこで彼は、庭の木からリンゴが落ちるのを見て「万有引力の法則」の着想を得た。湖中2年 高木 笑梨子

滋賀県書道研究会賞

高木 笑梨子

横書きを整理とした書きぶりで統一し、とても清潔感のある雰囲気が出せました。

中 2 年

梅雨 湖畔 砂浜 帆船
 創意 美術 読書 彩雲

双葉中 二年 田附 咲 良

京都新聞賞

田附 咲 良

曲線の使い方が鮮やかで、全体の柔らかな行書の雰囲気とピッタリ、マッチしました。

中 1 年

新生 太陽 朝夕 自然
 初志 画集 独立 信頼

皇子山 一年 土井 優 奈

滋賀県書道協会賞

土井 優 奈

とても上手に書かれていますので、もっと自信を持って動くところに良い作品になります。

高 1 年

自信は成功の第一の秘訣である。(ヘンソン)

果敢と根気は人間最高の美德。(ゲーテ)

石部 一年 三浦春舞

草津市教育委員会教育長賞

三浦春舞

筆圧も字形も美しく整っています。横書きのリズムを自分のものにして書き上げた秀作です。

高 1 年

上海は海に面して発展した街。上海料理といえは、様々な海の幸を使、たものが中心で、甘辛く濃いめの味付けである。

守山高校 一年 奥野創大

滋賀県教育委員会教育長賞

奥野創大

美しく整った字形で最後の名前まで見事に貫通して書き上げた、素晴らしい作品です。

中 3 年

大きな夢 自立の精神

強い信念 豊かな知識

河瀬 三年 本田莓美

京都新聞賞

本田莓美

一字の中にも、一行の中にも、幅の大小変化が、あざやかに配慮されていて、リンとした張りのある行書です。

中 3 年

新生 太陽 朝夕 自然

初志 画集 独立 信賴

栗東 三年 田島実乃里

滋賀県知事賞

田島実乃里

やわらかな行書の作品で、字の幅を少し広げながら、とてもゆったりと動きました。

高 1 年

未来の人間よ 君達こそ人間らしく生活してくれよう。愚かなことをくり返さず幸福に生活してくれよう。すべての人がよかへるよう働いてくれよう。

未来の人間 我等のまた種をかり入れる人間。出来るだけよき種を我等はまけるだけまきたく思っている。よき種をもちとり入れてくれ。

未来の人間 君達を他人とは思っていない。君達こそ大きな仕事を地上に完成してくれる人間だから。人間の栄光の為に働いてくれ。人間らしくよくなってくれ。

君達 未来の人間 実篤詩 伊吹高一年中川智揮

滋賀県書教育研究会長賞

中川智揮

実篤の詩をリズム良く口ずさみながら書き上げた様子が目に浮かび、筆者の清々しさを感じる作品です。

高 1 年

今は昔竹取の翁と、ふ者ありけり。野山にはなかりて所を取りつゝ、よろづの事につかひけり。名をば讃岐の邊とてを言ひける。その竹の中に根元が光を竹が一木あつた不思議に思て近寄つて見ると筒の中が光で、それをみると三寸くらゐの人がたいてうかづかゝる。姿で座っている。

守山高校 一年 木村優月

滋賀県書教育研究会長賞

木村優月

行間がきれいに通り、筆圧も一定し、丁寧な楷書で、名前まですっきりと書かれています。

高 1 年

梅雨 湖畔 少浜 帆船

創意 美術 読書 彩雲

大津商業高等学校 一年 上仲結花

滋賀県書教育研究会長賞

上仲結花

行書体を軽く伸びやかな線で書き上げています。文字の中の空間のとりかたも、整ってきれいです。

高 1 年

作品を書くという事は、ただ筆をもつて書けるものではありません。何か感動をあるものから受けて、その影響で自分の心が動きだし書きたいと思う幻影が頭の中に作りだされ、出来上がった書の姿がは、キラリとした形でないまでも見えてくるわけです。つまり、東大津高一年山中まなみ

京都新聞賞

山中まなみ

楷書の漢字とひらがなの基本がしっかりできており、名前まで確実に書かれています。

五月雨の降りのこしてや光堂 漱石
 涼しさを風に残して晴れにけり 乙由
 水ふんで草で足ふく夏野かな 来山
 守山北高校 一年 永瀬絵未里

すっきりとした細い線質で、俳句を一行一行丁寧に書いています。

眞の芸術は作品の背後に人間を求め。
 天下を動かそうと思えば先ず自分から動け。
 幸福ほど人間の美しさに対する化粧品はない。
 彦根東高 一年 中川 來慈

行の中心が良く通り、3行が一貫性のある伸びやかな楷書で書かれています。名前もきれいに書かれています。

熟知 補整 検索 霜降
 制約 養育 薄謝 稼働
 高島 一年 大久保 舞乃

文字の結構をよく学び、一画一画をしっかりと組み立てるように、注意を払って書かれています。

秋過ぎ冬もはや米り、蟻の仲間、忙しく、雨露にさらせる
 穀物を住居の傍に取入れて、小山の如く積貯へ、寒さの用
 意専一と共に働くその折から夏の終りに生、残り一足の蟻、
 飢寒に堪へ兼ね半死半生の様にて蟻の家に来たり。
 福沢諭吉「蟻と蝨の事」より 八日市高校二年 岡本 愛帆

画数の多い難しい漢字の入った文章に挑戦し、一字一字丁寧に書いています。

滋賀県書道研究会賞

岡本 愛帆

人間は自然の一部である。だから私たちの人生も自然の一部である。このことは私が病むまでの木や草や虫とどろどろ自然の一部である限り同じようなものではない。このことを意味するのだが、私は今までこのことを実感をもたずして生きてきた。老母が、私には、私も自然の一部であることを受け取ってくれた。以来、庭で草や木や草は私の目に、まるでとほまがたものとして映って来た。大や草は私にすくなく近づいてきた。強しいものと思われてきた。私は草のよふに揺れるのだ。そう思うと、恐ろしくなってきた。花のように美しく咲くのだ。そう思うと、どうしてか、人間が自然の一部であるという、木や草にどういふことなのか、東大津高校一年 安田 陽菜乃

行数の多い文章を最後まで集中して一貫して書いています。行間がきれいなので読み易くすっきりしています。

臆病者の目には、敵は大軍に見える。織田信長
 戦術とは、洞察力と信頼と勇気だ。ヨハンクライフ
 人生の意義は何を与えるかで決まる。キング牧師
 彦根東高 一年 木澤 咲耶

それぞれの名言を、字形に気をつけて堂々と書き上げています。言葉の意味が伝わってくるようです。

「さういふ友」高村光太郎
 黙ってても心の通る。
 いい悪いも両手に持つ
 さういふ友を持つのはいい。
 少しのむね無精ひげを見ながら、
 東京湾の話をおいたり、
 山の木魂の話をおいたり、
 ふところから本をおいたり、
 そんな話のあひだに、一足む。
 あの天文学がじりじり進む。
 どういふ軌道が現実か、
 どういふ現象が謎か、
 どういふ数理が精確か、
 無事に火然る学問を、
 さういふ友は置いておく。
 さういふ友が満ちればいい。
 この世にどて自分自身が、
 さういふ友であればいい。
 七里ヶ、はい、やくざな思は
 この頭から断絶はくれば、
 伊吹高校 一年 寺村 葵衣

きれいな線質で、漢字ひらがなのバランスも良く最後まで整えて書いています。

温たんが気候と、変化にとんだ豊かかな大自然に恵まれた「サザン」
 ラド。この国を訪れたらアウトライトを思い切り楽しみたい。
 氷河をいなくサザンアルプスの山々、そのふところにながら木林と
 湖 幽玄なノースト、全島がリゾートだ。
 湖 農 一年 山村 ほのか

とても書き慣れた軽いタッチで、リズムのある線がとてもきれいです。名前まで一貫して書いています。

滋賀県書道協会賞

山村 ほのか

滋賀県書道協会賞

永瀬 絵未里

滋賀県書道研究会賞

中川 來慈

滋賀県書道研究会賞

大久保 舞乃

滋賀県書道協会賞

寺村 葵衣

滋賀県書道協会賞

安田 陽菜乃

滋賀県書道協会賞

木澤 咲耶

わたしは、幼い時に母と眺めた丘の上からの風景を
 母の慈悲の現れ、生命の泉と感じた。自然と人間
 と対立するものとなし、感じ方、考え方がその頃から
 わたしに芽生えていた 石部高 福林 愛理

滋賀県書教育研究会長賞

福林 愛理

軽く伸びやかな線で筆圧も安定しています。行間とまわりの余白も美しく字形も整っている秀作です。

全国には七夕に由来する祭りが多く、日本海側には
 京都の祇園祭を想起させるものが多い。青森
 ねふた祭もその一つで七夕の灯笼流しの変形です。
 成章 高二年 木村 桜子

滋賀県書教育研究会長賞

木村 桜子

一定の筆圧で最後まで書ききり、楷書の字形の基本をしっかりマスターした安定感のある秀作です。

春の長閑に和らぐ夏の日暮の風の涼しき、秋の風の
 錦なす木林にわたる、づれ美しからぬはなけれど、寂寞にして
 静かなる文の景色の、さながら造化の禪定したらむやう
 なるこそ平静なる心には楽しけれ。 音根東二年 鈴木理央

京都新聞賞

鈴木理央

一貫性のある伸びやかな書きぶり、文字の大きさに大小をつけ、漢字・仮名ともに字形も整っていて見事です。

二、三年、京都には、地震と辻風とが大事と云、飢饉とい
 う災いが続々起つて来た、そして洛中のさびれ方はひどくあり
 ではない、旧記にもよく、仙像や仙具を打ち碎つて、その丹が
 ついた、金銀の箔がついた、木を、道ばたにつみ重ねて、
 三軒の料に売ると、たといふことである。 瀬田 岡野愛美

滋賀県書道協会賞

岡野 愛美

連綿線の入った行書体を自分のものにし、落ち着いてゆっくりと書き上げた秀作です。

芸術家にと、ては一切が美である。(ロダン)
 色彩が豊富になる時形も充実する。(セザンヌ)
 自信は成功の第一の秘訣である。(エロン)
 東大津 3年 中井陽菜

草津市教育委員会教育長賞

中井陽菜

軽いタッチのスッキリとした線でゆったり大らかに書けています。字中の白を大きくとったことで明るさを感じます。

青くきれいな海、この海は、どんな景色を見たか、爆弾が何発も打ちまわ
 り、おどろかされた町、そんな沖縄を見たか、緑まぶれる大地、この大地は
 どんな声を聞いたか、けたたましく、爆音、泣き叫ぶ幼子、兵士の声や銃声、
 入り乱れた戦場、そんな沖縄を聞いたか、青く澄みわたる空、この空は
 どんなことを思っていたか、緑が消え、町が消失、希望の水を失った島、体は震え
 心も震えた、この尊い命が奪われたことを知り、そんな沖縄に涙したか、
 ……令和時代、明日への希望を願う新しい時代が始まった、この幸せをいつまでも
 ……二〇一九 沖縄平和の詩、本町の幸せ、より 伊吹高校三年 友田 蘭月

滋賀県知事賞

友田 蘭月

斬新な紙面構成で行の流れを出すことが難しいにもかかわらず、終始一貫、小気味よいリズムで書き切った見事です。

現在確認されている最古の王朝である殷は、宗教色の濃い政治形態をとり、
 政治から農耕、天候まですべて神の意志をうかがった。つまり、亀の甲や獣
 の骨に文字を刻し、火であぶり、そのヒビ割れによって吉凶などを占い、時には更
 にその結果を刻した。その文字が甲骨文である。甲骨文は、殷代後期の紀元
 前一三〇〇年から使われ、初めは字数も少なかったが、次第に長文となり、
 筆と墨で、朱墨で下書きして、鋭い刀で刻すようになった。甲骨文の字形は直
 線的で簡潔である。現在約四五〇〇字が発見、研究され、ほぼ半数が解説さ
 れて、五期に分類されている。伊吹高校二年 草野 百菜

滋賀県書道協会賞

草野 百菜

多字数を最後まで丁寧に心を込めて書き上げました。良い作品にしようとする意欲が感じられます。

名をば、やぬきの造となむいひける。その竹の中た
 もとえる竹たむ、竹筋ありける。あやがうを寄うや
 みるに、竹筒の中えうたり。それを見れば、三寸ばかり
 なる人、さうくさうくみるたり。 長瀬二年 木村胡葉

滋賀県書道協会賞

木村胡葉

軽く安定した筆圧です。漢字、平仮名ともに整った字形で、所々に連綿線を入れた一貫性のある見事な書きぶりです。

